

クロマグロ

富山県では、秋から冬にかけて、クロマグロの幼魚であるシビコ（約1キロ未満）やメジ（約20キロまで）が100トン前後漁獲される。県内では、一般に、約30キロを超えたあたりからマグロと呼んでいるが、ブリなどと違い、銘柄区分がはっきりしておらず、20キロ級でもマグロと呼ばれることもある。マグロは、5～6月、日本海を北上回遊する際に富山湾へ来遊する。古くから定置網漁業の重要な対象魚種とされており、数百トン漁獲された記録があるが、ここ10年の平均漁獲量は6トンである。100～200キロの大物も珍しくなく、その巨体は迫力満点で、冬場のブリとともに、季節には必ず新聞やテレビで報道される富山湾のスターである。近年、回遊生態を明らかにするために、最新鋭の自動測位標識（アーカイバルタグ）を用いた標識放流試験が行われており、1995年12月に対馬で放された魚（体重3キロ）が、翌年5月、氷見で再捕されている。（井野）

